

## 発刊を祝う

- 山内優里香 元 丸亀市社会福祉協議会 副会長／元 丸亀市民生委員児童委員協議会連合会 会長
- 森里 淳美 元 丸亀市社会福祉協議会 副会長／元 丸亀市民生委員児童委員協議会連合会 会長
- 大西 義松 元 丸亀市社会福祉協議会 副会長／元 丸亀市連合自治会長
- 逢坂 勝美 元 綾歌町社会福祉協議会 会長
- 戸倉 節子 元 丸亀市福祉ママ会議 幹事長
- 片山 昭 丸亀ボランティア協議会 副会長
- 高木 勤 元 飯山町社会福祉協議会 事務局長
- 岩崎 道子 元 丸亀市社会福祉協議会 主任

## 再起を願う人たちへの支えとなって

「頑張らなくては！」の決意とともに挑んだ 山内 優里香



昭和35年、旧丸亀市社会福祉協議会が、発足し本年50周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。

この意義ある50年前、私は厚生大臣より民生委員として委嘱されました。当時私の担当地区は、富屋町南部、塩飽町南部、現在の大手町三丁目であります。世帯数は約150世帯ですが、私の地区は、元丸亀歩兵第十二連隊の兵舎に、満州、朝鮮、台湾等の引揚者と、関東・関西方面からの戦災者1,000名以上の人たちが居住していました。戦後まだ10数年の我が国は完全な施設も無く復興もまだ十分できておらず、兵舎の中には、一人暮らし高齢者、大勢の子どもを抱えた家族、心の病により援助が必要な親子、入退院を繰り返している結核患者など、この人たちの聞くも涙、語るも涙のなかで、次々と難問の続出、まだ三十代半ばの若輩の私は、「ここでくじけてはいけない、この人たちの手足となって頑張らなくては！」の決意のもとに、ほとんど毎日市の福祉事務所へ日参致しました。ときには七重の膝を八重に折ってのお願いに、

社協の職員のかたや、当時の課長様の親切でいねいなご教示をいただいたとき、民生委員という役柄が十分理解できなかった私にとりましては最高の人生勉強でありました。

市の貸付金の返済ができなくて、毎月償還指導のために訪問し、三年余りで完納し自立できた世帯のことを振り返ったとき、筆舌に尽くし難いものでした。

長いあいだ弁護士の先生共々心配ごと相談を通じて、垣間見た「法」の世界、まさしく人生の縮図そのものでした。

また、県外研修のとき、全国大会で大会会長の訓示に、事件以外は、警察も勝手に家の中に入れず、厚生大臣に委嘱された民生委員は、「奥まで入ってよし、家庭の事情も把握できるし、どうぞたゆまない努力をしてください。」この会長の言葉が民生委員の皆さまに周知できればこのうえない幸と存じます。

在任40年間に数え切れない出来事がありましたが、こうして生き永らえた人生に、毎日感謝しつつ、今後とも丸亀市社会福祉協議会のますますのご発展を祈念申し上げます。



民生児童委員総務・主任児童委員合同研修会



平和モニュメント除幕式

# 社会福祉協議会の思い出

「気軽に誰でも」を合言葉に現在も地域の中心として 森里 淳美



このたび、丸亀市社会福祉協議会が創立50周年を迎えられたこと心からお慶び申し上げます。

また、この半世紀にわたり、地域福祉の中核として多大の貢献されておりますことに深く感謝申し上げます。

私と社会福祉協議会との係わり合いは、昭和61年12月、民生委員の委嘱を受けたときより始まり、平成16年11月任期満了まで18年の長きにわたり今は亡き先輩各位、社会福祉協議会の職員の皆さんにご指導をいただき無事務めさせていただきましたことに対し心から感謝申し上げます。

顧みますと、平成元年理事に就任以来平成17年6月退任まで福祉のまちづくりにつとめさせていただきとくに印象に残ったことは、①平成5年「一人の不幸も見逃さない」を合言葉に取り組んだ福祉推進委員制度（平成8年に福祉保健推進委員制度）の取り組み。②平成7年郡家校区の地区社協（郡家校区地域づくり推進協議会）の設立に係わり福祉部会長として10年間地域の高齢者をはじめとする地域づくりの取り組み。③平成7年福祉のまちづくりフォーラム「住民の一人ひとりのニーズに対応しみんなが安心して暮らせるまちづくりの実現をめざして」をテーマに行われたフォーラムでの住民の福祉への理解と協力について発表。④平成12年に導入された官から民への介護保険事業所の立ちあげ。⑤平成15年から社会福祉協議会の綾歌町、飯山町との合併協議会委員として

参加し、綾歌町飯山町の委員の方がたとの交流。⑥平成20年11月、県社会福祉協議会主催ふれあい・いきいきサロン従事者研修会での「辻いきいきサロン」の事例発表。

現在、私は全国社会福祉協議会が平成6年11月より取り組んでいる「ふれあいいきいきサロン」を「気軽に誰でも」を合い言葉に寝たきりや認知症予防になるふれあいいきいきサロンを平成15年12月に立ちあげ現在7年目になります。

サロンのメニューとしては市保健師による健康チェック、輪投げ、ダーツ、パットゴルフなど、そして手作りの会食を年間（8月を除く）11回、地区の集会所で実施しており毎回約30名が参加し大変喜ばれております。

社会福祉協議会に望むものは、新聞報道によると県に占める高齢者は現在25.8%、5年後には30%を超え高齢者の生きがいつくりの拠点として社会福祉協議会の取り組みが必要だと思えます。

また自宅で療養したり、家族が世話できない家庭が増加することが予想され、社会福祉協議会の訪問介護事業に対するニーズが増大すると思われれます。どうか相手の立場に立って取り組んで欲しいと願っております。



郡家町 辻いきいきサロン

## 鶏鳴学館に始まる社会福祉のいま

連合自治会長として「地域」のまとめ役であった 大西 義松



丸亀市社会福祉協議会は、昭和35年1月7日に呱呱の声をあげている。前の年に寄附された「鶏鳴学館」の建物で業務を開始した。

「鶏鳴学館」は明治36年。蓮井麗巖らによって新浜の遍照庵に設立。大正15年に南条町に移された。ここは、丸亀城の外濠へ西汐入川から通じる濠の畔であった。昭和54年に新しく社会福祉センターが竣工し、平成11年に「ひまわりセンター」が竣工して移るまで、ここが本拠地であった。

末年、丸亀市社会福祉協議会は設立50周年を迎えるが、その間に旧丸亀の12校区で順次、地区社協が生まれ、合併後はこれに綾歌、飯山が加わったのは周知の通りである。

私の地区（城西）でも、この設立は会費の問題で難産であったが、社協の職員の協力をいただいて結成されたことに今、思いを新たにしている。



写真上：共同募金オープニングセレモニー  
中 城西地区社協ふれあい給食会  
下 共同募金会評議員会



# 社会福祉協議会の合併の思い出

企業合併や「平成の大合併」による市町村合併を経験 逢坂 勝美



社会福祉協議会の創立50周年に当たり、「社会福祉協議会のあゆみ」が創刊されますことを心からお喜び申し上げます。

私も旧丸亀市社協、飯山町社協、綾歌町社協が合併の為、合併協議会を設立して、平成15年12月より平成17年3月まで、約二年間にわたりまして、第1回協議会から第6回協議会まで、いろいろと大きい問題、小さいことがらまでちくいち、協議して円満に話し合いができて、無事発足できましたこと、今から思えば、大変、嬉しく思っています。合併とは、会社、香川県農協でのことを経験しておりましたが大きいことは、事務所をどこに置くか、人事はどうするか、財務に不正確さはないか、三点であったと思います。これから高齢化が進みますので福祉の仕事がますます増加すると思いますので、皆さまの一段のご活躍を祈念し、お願い申し上げます。



写真上：地域福祉活動計画策定委員会  
中 老人福祉スポーツ大会  
下 小規模作業所軽スポーツ大会

## 福祉ママとしての福祉活動から

すべての人々の「生きがい」を求めて 戸倉 節子



このたび、社会福祉協議会のあゆみを発行されますこと心からお祝い申し上げます。

丸亀市の合併による拡大に伴い、事業も多様化された現在、市民の福祉の原点を担う、社協関係の皆さまがたのご努力を心から感謝しております。昭和59年4月に、私も「福祉ママ」の一員として社協会長様から委嘱され、在宅寝たきり老人、一人暮らし高齢者の友愛訪問、施設や老人ホームの奉仕、チャリティバザーなど、これも多岐にわたるボランティア活動を積極的に取り組んだことが思い出されます。当時の仲間や、民生委員の皆さまがたのご支援のおかげで色々の思い出を残すことができ、平成11年3月に退任しました。

あれから十年余り、現在は私も一人暮らし高齢者となりました。老人ホームのデイサービスを利用したり、健康教室など新しい健康福祉の事業に参加し、日々生きがいのある生活を送らせていただいています。

楽しい人生を送る為には健康が一番です。心豊かに生まれてきてよかったと自他ともにいえる生活を送りたいと願う今日このごろでございます。

平成9年度 丸亀市福祉ママ会議総会



写真上：福祉ママ会議総会  
中 チャリティバザーオープニング  
下 うぶすな園でのふれあい昼食会



# ボランティア「その思い」

ボランティアが「地域に根ざした活動」であるために 片山 昭



私がボランティアに係わって、はや40年近くになります。当時青年会活動の充実として社会活動を提唱し、その後の活動が今日の丸亀ボランティア協議会の基礎になったような気がします。

その活動とは、お年寄りへの労力奉仕を中心とする訪問活動です。青年の心をとらえ、お年寄りからも期待され、だんだんと青少年層まで広がり青少年勤労奉仕協議会という組織ができ、その後新しくボランティア協議会も結成されました。今では特定非営利活動法人（NPO法人）として、旧飯山町、旧綾歌町、旧丸亀市のボランティアが結集してスタートしたばかりです。

丸亀市に県内で一早くボランティア組織ができたのも福祉ニーズをうまくキャッチし、ボランティアをする人、受ける人、それを取り巻く市や社会福祉協議会の事務局および福祉関係の協力体制が得られ、活動の成果が徐々に表れてきたからです。

また、ボランティア協議会の加盟するグループも、それぞれ目的をもって、地域社会づくりに地道に活動を続けています。

しかし、今日のボランティア活動はどうで

しょう。あの震災のとき、ボランティアには、目を見張るものがありました。その後全国的に広がり、今ではボランティアが市民活動団体として、地域に根ざした活動をしています。丸亀市内でも、NPO法人等多くを有しそれぞれが素晴らしい社会貢献をしています。

ボランティア協議会も地域に密着した活動をして長年培われてきました。しかし、ときは流れとともに、人の心やニーズがうまくかみ合っていないのが現状です。

ボランティア協議会は、合併にもなって新たなスタートをきりました。また、社会福祉協議会も「あゆみ」を発刊すると同時に新たなスタートをきろうとしています。

まさに今、その「時」がやってきたような気がします。

ボランティアも地域福祉も本来あるべく姿が再び叫ばれようとし、また、コミュニティも地域性を生かし独自で歩み出している今、なにか「時」を感じてならない。

ボランティア協議会と社会福祉協議会が連携して、お互いによりよい社会福祉をめざしていこうではありませんか。今、私はその想いでいっぱいです。



丸亀ボランティア協議会総会



福祉マップづくりバリアフリー調査

## 思い出と社協への期待

学生有志と過ごした日々を誇りに「明るい未来」へ 高木 勤



創設 50 周年を迎えられおめでとうございます。

顧みれば、先人のたゆまないご努力と関係団体や市民皆さんの支えが、現在の強固な社協組織へと発展させたもので、ともに慶びたいと存じます。

この節目のときに当たり、福祉ボランティアとして災害時に支援活動をされた学生、生徒の献身的な行動について、感謝の心をこめてご紹介します。それは、去る平成 16 年 10 月 20 日、台風 23 号が四国に上陸し、県内でも各地に大きな被害をもたらしましたが、飯山町では中央部を流れる大東川が氾濫し、流域 141 世帯に床上浸水など大きな被害を受けました。

当時、社協では被災者避難の受入れや高齢世帯の安否確認など、さまざまな対応に追われておりました。その折、飯山高校野球部員や飯山中学校ボランティアの生徒有志が災害支援活動のために、続々と自主的に社協事務局へ集り、担当の指示に沿って高齢世帯や一人世帯の浸水家屋で泥まみれになりながら、家財などの後片付けに大きな力を発揮されました。なかでも長期の活動者は授業終了後、数日間黙々と支援活動に携われ、ごみと汗の汚れと闘いながらも達成感や充実感を味わっていたように思え、そのさわやかさに感動いたしたところです。また、彼等の活動や結果の報告

から、福祉ボランティア活動を推進する立場を担った一人として、災害時の迅速な行動の体制づくり、安全確保の徹底、適確な情報受発信など指示行動のありかたに良い方向性の教訓を与えてくれました。

時代とともに対応する社会福祉の分野も複雑多岐にわたると思いますが、これからも地域に密着し、住民との協働や次世代を担う青少年、とりわけ学校教育現場との連携はきわめて重要な課題と認識しているところです。

今後とも、地域に信頼される社会福祉活動のさらなる前進に期待し、ご発展を念じています。

写真上：ふれあいワークキャンプ  
下：小学生総合学習（保健福祉センター見学）





# 人と私の 三十有余年 秋の空

いつの時代も「福祉のまちづくり」を願って 岩崎 道子



省みますと社協発足から50年、私は昭和37年に就職し48年がたちます。夢のようです。女性の必要性に迫られ採用されましたが、その当時は何の規則もなく、副会長の永田照雄様や上司の細川巳之市様に業務上の細かいことから教わり、なんとか定年退職まで続けることができました。

県内の市町社協のなかでは、最初に丸亀市が法人化されたと思います。社協の根底に流れる趣旨は、住民とともに福祉のまちづくりを進めることに変わりませんが、行政のできない事業、世帯更生資金の貸付事業、小口貸付事業、心配ごと相談事業などたくさんの事業展開を行ったことを思い出します。

当時の民生児童委員協議会連合会長藤田協会長が初代社協会長となり、種々の事業を始めました。福祉ママ制度、家庭奉仕員派遣事業、それに伴い職員も徐々に増え、昭和44年に市民会館が建設され、第1回丸亀市社会福祉大会を開催、昭和45年には競艇場に福祉売店を出店、そうしたなか、昭和54年旧の社会福祉会館から社会福祉センターが建設され、その地で社協業務を遂行しました。その後、私は平成9年まで働かせていただきました。今はまた、合併し大きな社協となり輝いています。今後の発展を祈念し、社協関係者の皆みな様のご健闘を祈念し、筆をおきます。ありがとうございました。



職員懇親会



社会福祉センター起工式



塩飽諸島の遠望